



上杉龍一（現代表者の息子）さん

当社は、四半世紀にわたり宝達志水町にて蕎麦店「蕎麦処上杉」と水羊羹「上杉の水羊羹」の製造を行っています。令和2年より新型コロナウイルス感染症拡大の影響により蕎麦店は休業せざるを得なくなり、今後どのように事業展開していけばよいかを相談に求められたのが支援開始のきっかけでした。

行きます・聞きます・提案します
そして 伴走します

～商工会の支援事例～ 27

コロナ禍時代を受け入れ、乗り越え、飛躍するための伴走型支援

支援先：株式会社上杉の水羊羹

初めての事業計画立案

これまで当社は事業計画を策定した経験がなく、「見込み」での事業運営を行ってまいりました。そこで、まず蕎麦・水羊羹それぞれについて、向こう2年間のコロナ禍収束の期間を踏まえた売上目標と行動計画を立てることにしました。

蕎麦・水羊羹双方バランスの取れた事業展開を図るための施策を一つずつ共に知恵を絞りながら検討しました。

コロナ禍時代の店舗・販路づくりの実施

コロナ禍時代に沿った店舗づくりの優先課題は、感染防止対策と売上の両立でした。

築100年の風情ある建物内で田舎の景観と共に庭を眺めながら蕎麦を食する「五感で味わうお店」がウリであることから、国の「小規模事業者持続化補助金」や県の「感染拡大防止対策支援金」を活用し、一枚板テーブル席や風情にマッチした柄の空気清浄機などを導入しました。

また、新たな取り組みとして、町の「新事業展開等支援補助金」を活用し、ご家庭で

気軽に味わってもらえるように「お取り寄せ蕎麦」のネット販売を開始するため、ECサイトの構築と蕎麦の日持ち改善のための設備を導入しました。



景観とマッチした一枚板テーブル席

これらの補助金申請の経験は今後、事業を実施していくうえでの大きな「力」になっていくものと期待されます。

人的・物的な課題を整理、克服

水羊羹は、商社を介して県外のスーパー等で販売され消費者から定評を得ていましたが、蕎麦店の営業の傍ら週1回の製造で製造場も狭く製造量には限界があるため、人的（従業員）・物的（製造場）資源に必要な投資を行い増産体制を構築する必要がありました。

そこで、まず人的には、蕎

麦店の営業時間を1時間短縮して休業日を増やし、水羊羹を製造するための時間を確保しました。

物的には、国の「小規模事業者持続化補助金」を活用して、作業スペースに合ったステンレス棚や特注容器を発注し、一度で200個分を製造できる環境を整えました。



水羊羹増産に向けた特注容器

販路については、蕎麦同様、ECサイトを立ち上げたほか、町の担当職員と連携し「ふるさと納税返礼品」への登録、県商工会連合会が企画した「いしかわ商工会お取り寄せうまいもんカタログ」への掲載など、情報提供から申請・事業完了まで一貫した支援を行いました。

お客様の声を生かして 更なる挑戦を

コロナ禍以前の売上は、蕎

麦が水羊羹を大きく上回っていましたが、現在は双方ほぼ同額となり、足腰の強い経営体制が構築されつつあります。現在、水羊羹の新商品開発に着手するなど、消費者ニーズに即した取組を計画・実行中です。



新味を追加するべく鋭意開発中

担当経営指導員から一言

社長のご子息からは「内情に合った多くの提言をいただき、二人三脚で取り組んで来ることができた。」とのこと言葉を頂戴しました。これからも商工会から積極的にアイデアを提供し、当社が目指す経営に対し選択肢を1つでも多く提供していきます。

宝達志水町商工会
経営指導員 高田圭一郎

（株）上杉の水羊羹

〒九二九-1-342
羽咋郡宝達志水町麦生ヌ六十六
TEL 〇七六七-二八四七四〇

この事例は、令和三年度石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。